

阿蘇中央高校 卒業証書授与式



総合ビジネス科総代 小坂 真未



普通科総代 藤井 治

答 辞



春夏秋冬。

思い返すと巡る季節をこの仲間と共に過ごしてきました。そして、三度目の春の訪れを感じるこのよき日に、心温まる卒業式を挙行してくださったことを卒業生一同、心より感謝申し上げます。

三年前、寒さに耐え、力強く咲く桜を見てこれからの高校生活を全力で頑張ろうと決意したことを今でも覚えています。目標を持ち入学した人、新しい生活に不安を抱えていた人など、その心境は様々だったことでしょう。初めは静まり返った教室も、集団宿泊研修、田植え、五岳祭、稲刈り、文化祭、クラスマッチなどたくさんさんの行事を一緒に経験し、少しずつお互いのことを知ること、で、明るい笑い声が響くようになりました。

平成二十四年七月十二日、後に「今までに経験したことのない大雨」と表される九州北部豪雨災害に見舞われました。目の前に広がるのは幼い頃から慣れ親しんだふるさとの風景とは程遠いものでした。気になったのは友人のことでした。学校は浸水してはいないか、寮の仲間は無事か、被害の大きい地域に住む友人は大丈夫か、多くの不安を抱え私は避難所の隅に座っていました。

学校でみんなと再会したとき「全員生きていてよかった」と心から安堵しました。そして、全校生徒でボランティア活動に行き、感謝の言葉をいただき私たち自身も嬉しく、今後も頑張る姿で恩返ししたいと思いました。そんな中飛び込んできた野球部の夏の大会ベスト十六入りは本当に阿蘇を元気づけてくれました。「自然を前に人は無力」と言いますが、人が人を想い、行動し、繋がることであれば、微力ではあるかもしれないけれど無力ではない、そう信じています。

その後私たちは二年生になり、後輩ができ、少し誇らしかったことを覚えています。新しい制服姿や廊下で交わす挨拶も初々しく、一年前の自分たちを見ているようでした。そんな後輩たちも今では立派にこの学校をリードする存在になっています。

そして修学旅行では、心温まるエピソードにも出会うことができました。それは、宿泊最終日。一人の生徒がホテルのスタッフに感謝の手紙を部屋にそっと残してきたというものです。「ありがとう」の気持ちを素直に伝えることの出来る真っ直ぐな阿蘇中央生の姿がそこにはありました。無事に阿蘇に着いたとき、変わらぬふるさとの風景に「やっぱりここが好きだな」と心底思いました。

三年生になり、部活でも進路実現でも勝負の年となりました。部活では、辛い練習に耐え総体という高校最後の試合に向け頑張ってきた努力を实らせたいという熱い想いが、夜遅くまで明かりの灯る体育館やグラウンド、武道場から、響く声になって伝わってきました。最上級生となった今年、自分たちが部を引っ張っていく立場になり、キャプテンであるが故に、その責任の重さに押し潰されそうになりながら、また時には自分を見失うこともあったと思います。そんな時、救ってくれたのはいつも仲間の存在でした。迎えた高校総体。どの部活も必死に頑張り輝かしい結果を残してくれました。

三学年主任

杉本知寿子

卒業おめでとうございます。私は君達と二年間を過ごし、どんどん成長していく様子を学年の先生方と一緒に見てきました。職員室の三年の先生方の席では、いつでも君達の話題で盛り上がりっぱなしでした。三期生に出会って関わることができたことに感謝して、今日の姿を誇りに思っています。

朝のSHR中に教室を見て回ると、担任の叱咤激励に緊張みなぎるクラス、担任の毎朝のメッセージを読んで優しい笑顔になるクラスなど、それぞれの個性が生まれていました。授業でも担任をどれほど自分たちが信頼しているか熱弁をふるったり、担任の物まねをして笑わせようとしてたり・・・廊下を歩く私に気づくと必ず笑顔を見せてくれた愛嬌いっぱいの子達もいよいよ旅立ちですね。これから一人ひとりの選んだ場所での新しい生活が始まります。この三年間の成功や失敗で流した涙、先生方から褒められて喜んだり、叱られて落ち込んだりした気持ち、保護者の方から受けてきた支えにそっと感謝した心、そのすべての思い出がこれからの君達をささえていくと私は思っています。三年の学年に関わった全ての先生方が君達の未来が希望に満ちたものであることを願っています。



普通科3年1組



総合ビジネス科3年



普通科3年3組



普通科3年2組



社会福祉科3年



グリーン環境科3年



農業食品科3年